

四門会

第12号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

2004年 雑感	教授 肥塚 泉	2
----------	---------	---

ご挨拶

平成16年度医局長挨拶	医局長 関 良武	3
本院、東横、西部病院外来担当表		4

特別講演要旨

IgA腎症の治療戦略―扁桃摘出の位置づけ	腎臓・高血圧内科教授 木村健二郎	6
----------------------	------------------	---

大学院生便り

便りその2	田中 泰彦	8
一つの実験を終えてみて	杉田 明美	8
大学院便り	島田 園子	9
VIVA VERTIGO Part II	鈴木 一輝	10
VIVA EB Part II	齋藤 晋	10

特別寄稿

アレルギー性鼻炎に対する私見	宮前区 木山 博夫	11
----------------	-----------	----

Cutting Edge

呼吸器機能制御における前庭系の役割	新谷 敏晴	13
-------------------	-------	----

Siene, Paris紀行	済生会川口総合病院 犬飼 賢也	15
----------------	-----------------	----

元気にしています

老け顔の犬。実は…	東芝林間病院 田中健二郎	16
元気にしています	福城市立病院 中村 学	16
頑張っています	共立蒲原総合病院 春日井 滋	17

新入医局員紹介

よろしくお願ひ致します	岡村 淳	19
-------------	------	----

ありがとう

ありがとう	耳鼻咽喉科有馬クリニック 勝見 直樹	20
聖マリアンナ医科大学ありがとうございます	耳鼻咽喉科むつみクリニック 釵持 睦	20

おめでとう

源太 誕生	秦野赤十字病院 服部 康介	22
私の育児体験	東芝林間病院 東 美紀	22

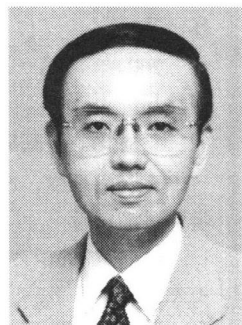
同門会会則		24
-------	--	----

平成16年度 同門会 会員名簿		26
-----------------	--	----

第7回理事会議事録		31
-----------	--	----

編集後記	岡田 智幸	32
------	-------	----

「2004年雑感」



肥塚 泉

酷暑、台風、プロ野球ワンリーグ制、新規参入問題等々、本年も数々のキーワードで飾られる年となりました。しかし私ども大学病院の耳鼻咽喉科医局に籍を置くものとして、今年最大の“事件”は、前にもこの巻頭言で書かせていただきました「臨床研修必修化」がついに始まったということです。ここで、もう一度この新研修システムについておさらいさせていただきます。

厚生労働省は去る2年前、通常国会に「第四次医療法改正案」を提出しました。法案では、医師の臨床研修の「必修化」が柱の一つとなっており「医師法改正案」も一括して提出されました。この改正により、これまで各大学、各研修指定病院で独自に行われてきた研修医教育が、基本的には全国でほぼ画一化されました。全国の臨床研修施設でスーパーローテイト方式を取り入れることが必須となり、研修医の処遇ならびに経済的な環境の改善、マッチング制度の導入等が行われました。

聖マリアンナ医科大学でもこれまでは、本校を卒業した学生の多くは、母校の希望医局に入局していました。しかしこれからはマッチングシステムが導入されることより、入局先は母校じゃなく、他校に試験を受けて入局する学生が増えるのではという懸念がありました。実際には、卒業生の約7割が、母校に残ってくれるという結果になりましたが、地方の国立大学では反対に、母校に残る学生が2割以下という大学も数校あったようです。ただ、約7割の学生が残ってくれたものの、彼らは医局には属さず、病院長直属の研修医として、いわゆるスーパーローテイト中です。スーパーローテイトする科には、耳鼻咽喉科や眼科、皮膚科などの、いわゆる“マイナー”と言われる科は含まれておらず、今後2年間、われわれ“マイナー”の科では物理的に、新研修医がいないという、まさに“冬の時代”を迎えてしまいました。その上、もともとは耳鼻咽喉科志向であっ

た若い研修医が、スーパーローテイトの2年間の間に“宗旨替え”する可能性も十分にあり、全国の耳鼻咽喉科医局で、いかにして3年目からの後期臨床の若い医師を呼び込むか苦慮しているところです。つまりこれからは大学はもとより、医局にも何らかの特色、あるいはいわゆる「売り」がないと、研修医が応募してくれないという可能性が出てきました。今後われわれ聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室が、これまで以上に実力を蓄え、全国から、多数の研修希望者が集まってくれるような医局の構築ができるよう、同門の先生方のお知恵を是非とも拝借したいと考えております。

さて本学は、平成18年で創立35年目を迎えることとなります。「21世紀初頭における聖マリアンナ医大の新しい創造のはじまり」(理事長のことば)の一環として、大学、大学病院、東横病院のリニューアルに取りかかることになりました。大学医学部、病院、明石会館、駐車スペースなどが将来的展望のもとにランドデザインが作成されつつあり、その第一歩として、明石会館の新規建築が確定されました。東横病院においては、救急医療センターを増築、外来・病棟の入る建物は一新し、新機能を充実させて地域医療はもとより、研究と教育に新たな展望を盛り込むことになりました。さらに、この時期に合わせて北部病院が完成をみることとなります。今年度から、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会を大学キャンパス内で行うことにさせていただきました。これからしばらくの間、年々変貌する母校をご覧になることができると思います。旧友との再会はもちろん、懐かしい大学が生まれ変わる姿も楽しんでいただきたいと思います。

同門の先生方のさらなるご健勝を祈願して、巻頭言とさせていただきます。

平成16年度医局長挨拶

医局長 関 良武

平成16年4月から勝見先生の後を受け医局長に就任いたしました。医師になってから今年で11年になりますが、まさかこんなに早くこのような立場になるとは思いませんでした。私どもの年代ですとまだ臨床や研究を中心にやらなければなりません、今年も医局長業務を中心に仕事を行っております。世間では、医療に対する目も厳しくなっておりますが大学ではオーダーシステムの変更、研修医の不在などにより十分な体制とは言えません。しかし病棟、外来業務も日に日に増えている状況で医局員は日夜奮闘しております。大

学内の臨床の体制は、耳鼻班と、腫瘍、喉頭疾患の班の2チーム制になっており、肥塚先生、堤先生、岡田先生、渡辺先生の指導のもと若い先生の臨床能力も高くなってきていると思います。

今後は、さらに問題が起こらず明るく仕事ができる職場になる様努力していきたいと思っております。

医局の構成員も若くなってきており今後さらに諸先輩方のご指導が重要と考えております。



耳鼻咽喉科外来担当表

平成 16 年 10 月現在

()内の数字は何週目かを示す

		月	火	水	木	金	土
		初診	肥塚 岡田	木内	渡辺	新谷	堤
午	再来	黒田(1,3,4,5) 鈴木(一) 関 (2)	赤澤 島田	関 高橋	黒田(2,4) 島田 関(1,3,5)	木内 信清	赤澤 高橋
	特殊	中耳 顔面神経	頭頸部 腫瘍	咽頭 音声	扁桃	めまい	味覚
前		肥塚 新谷 木内 菱澤	堤 渡辺 関 鈴木(毅)	信清 赤澤	黒田(1,3,5)	肥塚 岡田 宮本 服部(2,4) 春日井(2,4) 鈴木(1,3,5)	大草(2,4,5)
					咽頭 音声 岩武(1,3)		
	病棟当番 手術担当医	赤澤、高橋	高橋	鈴木	鈴木、高橋	黒田、鈴木	島田
午				岡田 新谷 木内 黒田 島田 岡村	堤 渡辺 関 信清 高橋 鈴木(一)		
				鼻・副鼻腔 アレルギー		聴覚	
				木内 黒田 島田 宮部(2,4) 田中(健)(1,3,5)		新谷 越智 鋸持(2,4,5) 木下(1,3)	
	めまい検査		信清、関		島田		
後	救急当番	木内	赤澤、関	高橋	新谷	黒田	
	手術担当医	堤 渡辺 関 信清 高橋 鈴木	肥塚 岡田 新谷 木内 黒田 島田 岡村	肥塚 岡田 新谷 木内 黒田 島田 岡村	堤 渡辺 関 信清 高橋 鈴木	堤 渡辺 関 信清 高橋 鈴木	

東横病院

○=部長、●=副部長、◇=主任医長、◆=医長、無印=医員

耳鼻咽喉科						
受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30~11:30	越智● 小宅◆	大塚◇ 沢田	小宅◆ 高津	越智● 大塚◇	大塚◇ 高津	越智● 医局員 (交代制)
13:30~15:30	聴覚	手術	手術	手術	手術	
	越智●					
	鼻・副鼻腔 小宅◆					

西部病院

○=部長、●=副部長、◇=主任医長、◆=医長、無印=医員
()内の数字は何週目かを示す

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	初診	初診	初診	初診	初診	佐藤●
	佐藤●	宮本◆	内田◆	宮本◆	佐藤●	宮本◆
	再診	再診	再診	再診	再診	内田(2,4)◆
	内田◆	佐藤●	芋川(2,3,4) (非常勤講師)	内田◆	佐藤●	
	杉田	杉田	宮本◆	杉田	内田◆	
午 後	中央手術	中央手術	中央手術	検査	検査 鈕持(1,3) (非常勤講師)	

関連病院

平成16年10月現在

西部病院	佐藤 成樹 宮本 康裕 内田 登 杉田 明美	TEL 045-366-1111 FAX 045-366-1190
東横病院	越智 健太郎 大塚 崇志 小宅 大輔 高津 光晴	TEL 044-722-2121 FAX 044-711-3316
聖ヨゼフ病院	俵道 淳	TEL 046-822-2134 FAX 046-822-3134
東芝林間病院	田中 健二郎 東 美紀	TEL 0427-42-3577 FAX 0427-42-6121
稲城市立病院	菱澤 えり子 中村 学	TEL 042-377-0931 FAX 042-379-1310
稲田登戸病院	西野 裕仁	TEL 044-911-2100 FAX 044-932-6186
済生会川口総合病院	犬飼 賢也 (研究員) 杉山 裕	TEL 048-253-1550 FAX 048-253-8940
島田総合病院	小林 健彦 井原 佳美	TEL 0479-22-5401 FAX 0479-23-3613
水戸済生会総合病院	富澤 秀雄 岡本 充史	TEL 029-254-5151 FAX 029-254-9099
横浜総合病院	桑原 大輔	TEL 045-902-0001 FAX 045-903-3098
秦野赤十字病院	大橋 徹 (客員教授) 服部 康介	TEL 0463-81-3721 FAX 0463-82-4416
共立蒲原病院	木下 裕継 春日井 滋	TEL 0545-81-2211 FAX 0545-81-2208
癌研究会付属病院	新橋 涉	TEL 03-3918-0111

IgA腎症の治療戦略—扁桃摘出の位置づけ

腎臓・高血圧内科教授 木村 健二郎

IgA腎症は日本では慢性糸球体腎炎の30%以上を占める最も頻度の高い糸球体疾患である。患者数は男女ほぼ同数で、年齢分布は2峰性で15-25歳と40-50歳にピークをもつ。日本では毎年3万人以上の末期腎不全患者が透析療法に導入されているが、その原因疾患として糖尿病性腎症に次いで慢性糸球体腎炎が多い。慢性透析患者の数は現在では24万人を優に越え、その治療費には年間1兆円を越える医療費が使われている。したがって、IgA腎症の原因を究明してその治療法を確立し末期腎不全への進展を抑制することは、患者の福祉のためは勿論のこと、医療経済上も急務とされている。

IgA腎症とは慢性糸球体腎炎のうち、糸球体のメサンギウム領域にIgAを主体とする顆粒状の沈着物を認めるものをいう。1968年にフランスのBerger Jらが初めて記載したものである。糸球体病変の程度は様々で、殆ど変化の無いものから強い増殖性の変化を来すもの、半月体形成を来すものまで巾が広い。臨床症候も無症候性の血尿からネフローゼ症候群や急速進行性腎炎症候群を来すものまで巾が広い。電子顕微鏡で観察すると、メサンギウム領域に高電子密度の沈着物が観察される。この沈着物はしばしば巨大となりメサンギウム領域から半球状に突出して光学顕微鏡でも観察される程になる。Berger Jらが最初に記載したときには予後の良い慢性糸球体腎炎とされていた。しかし、その後、長期予後が明らかにされるにしたがって腎生検後20年で30-40%が末期腎不全に陥ることが明らかにされてきた。

その成因についてはまだ明らかにされていない。メサンギウムに沈着しているIgAはIgA1で、J鎖を伴った2量体もしくは多量体である。そのIgAの由来は粘膜あるいは骨髄で産生されるものと考えられている。流血中のIgA抗体と何らかの抗原、補体の免疫複合体が腎糸球体に沈着して発症する免疫複合体疾患であるとする説が有力である。しかし、抗原体としては、ウイルス説（EB、アデノなど）、細菌抗原説（パラインフルエンザ菌など）、食物抗原体（グルテン、大豆蛋白など）、自己抗原説などがあり、未だ確立されていない。従来、抗体を用いた同定方法には限界があり、蛋白を直接解析するプロテオミクスの手法に期待が集まっている。しかし、最近、IgA腎症患者でIgA1のヒンジ部の糖鎖異常が報告されている。糖鎖異常をもつIgA1は凝集しやすくメサンギウム領域に沈着して炎症を惹起する可能性も示唆されている。

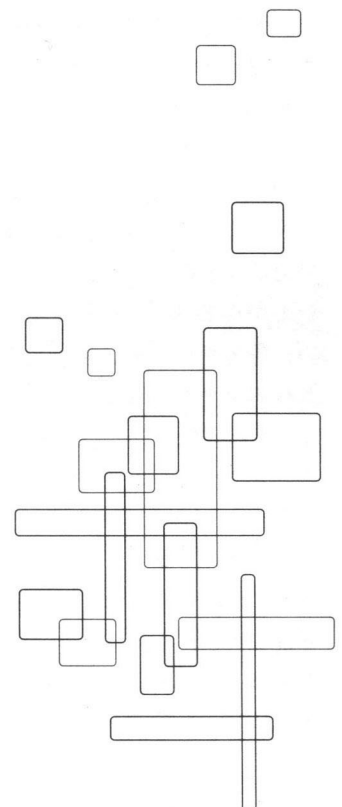
成因が明らかにされていない現在、治療は対症療法が主体である。抗血小板薬の長期投与と降圧薬による血圧コントロールが基本である。血圧はなるべく低く維持した方が腎障害の進展が抑制されることが明らかにされ、135/85mmHg未満（尿蛋白が一日1g以上では125/75mmHg未満）を目標値にすることが薦められている（日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン2000年」）。また、レニン-アンジオテンシン系抑制薬（ACE阻害薬、アンジオテンシン1型、受容体拮抗薬）は尿蛋白を減少させる効果に優れ、腎疾患の進展を抑制することから、必須の降圧薬とされている。

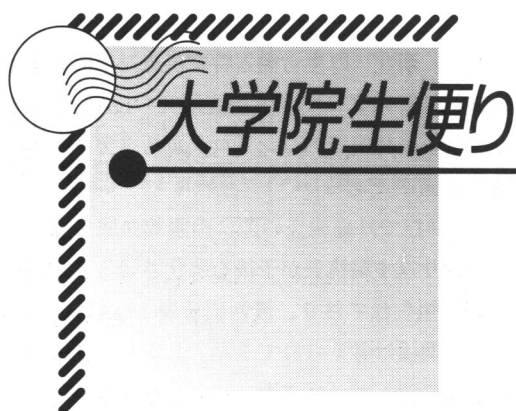
る。ステロイドに関しては多くの議論があったが、現在ではその効果は一般に認められている。特に、小児科領域ではステロイドと免疫抑制薬を含むカクテル療法の有用性が報告されている。

最近、日本から扁桃摘出にステロイドパルス療法を組み合わせた治療法の有効性が報告されて注目されている。仙台社会保険中央病院の堀田らはIgA腎症の患者の予後を調査し、その寛解に寄与した治療法は扁桃摘出およびステロイドのパルス療法のみであったと報告した (Hotta O et al. Am J Kidney Dis 38:736-743,2001)。さらに堀田らはIgA腎症の患者に扁桃摘出とパルス療法を組み合わせた治療法前後で腎生検を行い組織像が改善することを報告した (Hotta O et al. Am J Kidney Dis 39:493-502,2002)。その後、他の施設からもこの治療法の有効性が報告されるようになった。しかし、この治療法はコントロールスタディがなされておらず未だエビデンスとしては確立したとは言

い難い。現在、厚生労働省特定疾患対策研究事業の進行性腎障害に関する調査研究のIgA腎症分科会では全国規模でのコントロールスタディを行う事を計画中である。

IgA腎症では扁桃炎の際に肉眼的血尿を来したり、繰り返す扁桃炎が予後を悪化させることは経験的に知られており、慢性扁桃炎とIgA腎症の何らかの関係は考えられてきた。しかし、扁桃摘出の効果に関しては従来否定的な見解が多かった。扁桃摘出とステロイドのパルス療法がIgA腎症の予後を改善する事実は、扁桃がIgA腎症の成因に関わっている可能性を示唆している。今後の課題は、①この治療法をエビデンスをもって確立すること、②扁桃とIgA腎症の成因との関係を明らかにすること、そして③どのようなIgA腎症患者で扁桃摘出が有効かを予め予測する臨床的指標を明らかにすることなどである。





(私、この研究やっています)

便りその2

田中 泰彦

昨年は、この場をお借りし研究の概要をお伝えしました。現在、大学院3年生として昨年の研究課題を引き続き進めているところです。

今回はその続報で…。

実験方法ですが、ある種の軟骨細胞で二次元電気泳動を行い、それを更にWestern blotting用の特殊な膜に転写します。そして、再発性多発性軟骨炎 (Relapsing Polychondritis : RP) 患者血清を一次抗体とし、Western blottingを行います。すると、各患者に特異的なタンパク質が染色液に反応させることでスポットとして浮かび上がります。これを健常者血清でも同様に行い、各スポットを比較することで、患者に特異的なスポットを選定します。さらに再度、軟骨細胞で二次元電気泳動を行い、予め選定したスポットをゲルよりくり抜きます。くり抜いたスポット (ゲル) をトリプシンという酵素を使って消化します。その溶液を昨年この場にお伝えしました田中耕一博士の開発したものと同型の質量分析器にかけ、各ペプチドの構成より、そのスポットのタンパク質を同定する…というものです。

現在のところ、患者に特異的とみられるスポットを33個選定しそのうち12個を同定することが出来ました。1個に関しては既にリコンビナントタンパク質 (PCR等を利用し塩基配列より自分でタンパク質を作ったもの) を作製し再度Western blottingを行い、統計的解析を行っているところです。

今後は残りのスポットの同定を進めていこうと思っています。

また、最近「自己免疫性内耳疾患」という概念が論文にて散見されていますが、そちらに関しても本院の先生方にご協力を頂きながら同様の方法で実験を進めているところです。少しでも臨床に役立つような実験結果が得られればと、思っています。諸先生方には、今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

一つの実験を終えてみて

杉田 明美

大学院3年目の杉田明美です。前回の大学院便りでは「実験がなかなかうまくいかず、試行錯誤しております」というところまで書いたように思っています。私は大学院1年目のときに東京医科大学の生理学教室に国内留学させて頂き、1年間前庭系の動物実験に携わっておりました。そして、1年間の研究で一つの結論を導き出すことができました。

前回は実験内容を詳しく書いた覚えがありますので、今回は実験生活談を書くことに致します。実験は、ネコを使った前庭動物実験でした。始めの頃は、何もかもが初めてのことでまず慣れることからスタートしました。実験はま

ずネコと友達になることから始まります。あらかじめ動物実験センターに行き、次回自分が実験に使うネコを選びます。そして毎日、帰り際にはそのネコのもとへ通い、顔を覚えてもらい仲良くなります。しかし決してこのとき感情移入してはいけません。なぜなら後で実験に使うときに必要以上に悲しくなるからです。ネコとあらかじめ仲良くする理由は、いざ実験の日に檻からネコを出すときになるべく興奮させないためです。ネコを興奮させると交感神経の活動が高まり、実験中の血圧に影響が出やすくなり、実験しにくくなるのです。私はもともと猫大好き人間なので、割り切るのに努力を必要としました。実家でも猫を飼っているのですが、実験を始めて何ヶ月か経った頃、静岡の実家に帰省した際、珍しいことに何と飼い猫が私の手を激しく噛んだのです！何か危険なオーラを感じたのでしょうか。あるいは後ろに何か憑いていたのでしょうか…。

さて、失敗を繰り返し、試行錯誤の実験を重ねていくうちに夏が過ぎ秋口になってしまい、少し焦り始めました。しかし実験7回目くらいからやっと成功し、データが取れるようになってきました。なぜ失敗したのかを考え、方法を改良し、その中で得るものも多かったと思います。実験の厳しさを学びました。そして冬になり、結果が出始めてからは、守衛さんには迷惑がられました。研究室に寝泊りする日が続きました。ここでも「自宅に帰らな癖」がしみついてしまったようです。研究室の動物霊たちと仲良くしなければなりません。しかし一つの結論を導き出そうとしている期間は無我夢中でした。出たデータを過去の文献と照らし合わせて一つの結論を出すのはまるでパズルを組み合わせていくかのようです。このシリーズの私の実験の主役は三半規管の一つである、水平半規管です。得た結論は一言でいえば、「水平半規管は姿勢制御にあまり関係がない。」ということでした。それよりも眼球運動や、頸部の運動に深く関わっているようです。耳石と比べますと、

耳石の方が水平半規管よりも姿勢制御に関係しているようです。そして一つのことが分かると、次々と新たな疑問にぶち当たります。研究に対する姿勢を学ばせて頂くことができ、大変貴重な1年でした。

その後は西部病院での臨床生活に戻りましたが、研究生活で得た、ものに対する考え方を大切にしながら臨床にも役立てていきたいと思っております。引き続き、臨床・研究と尽力致しますので御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

大学院便り

島田 園子

今年、大学院2年目を迎えました。諸事情により、昨年このページでご報告させていただいた研究からは一時離れることになりました。耳鼻咽喉科領域でのCOXの研究は、今までどおりに手術症例から検体を提供していただき、難治研の研究者の方に実験していただいているという状態です。私は平成16年1月より新たに耳鼻科の中村学先生や田中泰彦先生が研究をしている研究室にお世話になることになり、同様の手法を用いて、自己免疫性内耳疾患についての実験をすることになっています。本年度はカンファレンスの参加や、実験手技の習得を目標にし、来年度以降本格的に研究を始める予定です。初診の先生方をはじめ外来担当先生方には、患者様より血清のご提供をいただくにあたりご理解とご協力をいただきまして大変感謝しております。今後の研究に役立てたいと思います。

VIVA VERTIGO Part II

鈴木 一輝

大学院2年目の鈴木です。今年も本院にて臨床及び研究をさせて頂いております。

研究においては今年も昨年度より引き続き、渡辺先生のもと、前庭動眼反射の可塑性に関する研究をしております。昨年11月にはめまい・平衡医学会、今年4月には日韓国際耳鼻咽喉科学会にて、その研究結果を発表することができました。現在は発表した内容を論文にまとめる作業をしております（これがなかなか進まないのですが…）。

臨床も研究も至らない点が数多く、毎日悪戦苦闘しております。今後も諸先輩方の御指導を頂けたら幸いです。今後どうぞよろしく願いします。

VIVA EB Part II

齋藤 晋

大学院生として微生物学教室に入り早くも一年半が経過しました。最近ではだいぶ実験のことも理解できるようになり、研究の愉しさが徐々にわかるようになってきたのではないかと思います。現在、私は微生物学教室で上咽頭癌とEBウイルスの関係に関する研究をウイルス学の見地から行っています。皆様方ご存知の通りEBウイルスは伝染性単核球症を引き起こしますが、その他に上咽頭癌、胃癌、乳癌などの上皮系腫瘍も惹起するとされ、近年非常に注目されているウイルスです。

また、この教室には面倒見がいいだけではなく、非常に独特な味のある先生が多くいますので、研究がしやすいだけではなく、毎日なにかしらの出来事があり実験をしていて非常に楽し

いところでもあると実感しています。

これからはデータの整理やら、学位論文作成などに追われ、ますます大変になりますが、気を引き締めていこうと思います。



特別寄稿

アレルギー性鼻炎に対する私見

宮前区 木山 博夫

1971年岡田講師の父君・岡田諄教授に連れられて、現熊本大学名誉教授 石川先生の活躍されている千葉大学を訪れた事を昨日のごとく思い出されます。それからアレルギー疾患に携わってきたのも、お二人のご指導と今でも深く感謝しています。博士論文は「小児鼻アレルギーの病像」でしたから、今でも小児のアレルギーに関しては大いなる関心を寄せています。

近年アレルギー性鼻炎は鼻及び肺を含めた気道アレルギーの一疾患として捉えられるようになりました(2004年 日本アレルギー学会 竹内氏)。この慢性に経過する難治性の現代病(2004年 日本鼻科学会 馬場氏)に立ち向かうには、針治療、漢方治療を含めた統合的なアプローチが要求されます。私は現在東邦大学第一耳鼻咽喉科学教室客員講師として5年生のクルズズに関わっていますが、鼻科学において最初に質問し、教えるのが鼻の生理についてです。アレルギー性鼻炎においてこの生理現象が過度に障害された状態ではありますが、くしゃみは異物を排除し、水性の鼻汁はそれを洗い流し、それ以上異物を入れなくするため鼻の粘膜が腫れるということであり、本来は生態防御反応であるということです。漢方医学的には全身の異常が局所に現れたとして身体全体の問題として捉えていきますが、西洋医学的には悪いところがあればそれをとってしまえという発想に行き着きます。千葉大学の研修を終えてから、アレルギー外来を開設しましたが、その時石川先生に言われたのは「子供の粘膜はいじるな」

ということでした。当時盛んに行われていたのが下鼻甲介粘膜切除術でしたが、私は一例もこれを施行することはしませんでした。数十年経て当時の子供たちに再会し、あらためて石川先生の先見の眼の凄さに感嘆させられました。次に登場したのがビデオン神経切除術でしたが、次第に施行されなくなり、現在では後鼻神経切除術に変わってきました。しかしこの手術はあまりにも専門的過ぎて一般には普及しないように思われます。ところが最近レーザー療法が登場し、あっというまに日本全土に広がりました。それはこの手術の簡便性と機械が高額ゆえの保険点数の高さが要因であろうと私は考えております。しかしその本質は下鼻甲介粘膜切除術と何ら変わりません。本来の鼻の生理的な機能を廃絶することにおいては同じ手術と考えます。今までの日本アレルギー学会、及び日本鼻科学会において、小児においてのレーザー療法の報告がないことは救いではありますが、小児においてはこの鼻の生理的な廃絶が、下気道すなわち肺にどのような影響があるか判らないための、暗黙の了解ともとれます。現在各地で小児スギ花粉症症例に、この手術が施行されていますが、それでは何でもないと3シーズンを鼻の生理機能のない状態で過ごさなければならないということに対して術者はどのようにお考えになっておられるのでしょうか？

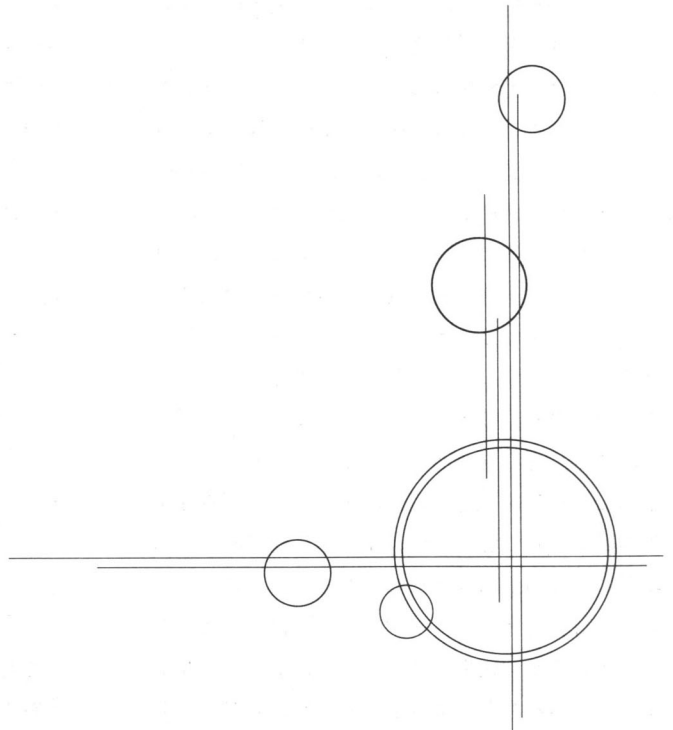
今年花粉の飛散は予想どおり極めて少ない量でした。それゆえ従来の症状に比較して症状の改善を判定するのは困難であります。当医院に

において減感作を15回以上受けていること（2003年日鼻学会 横山氏らの季節前減感作療法に準じ、年5～6回春のみの注射です）。注射前と今年の4月時点でのアレルギーの検査を施行し、アレルギー学会においても十分に報告できる38名の方々にこの療法が（1）変わらない（2）やや良くなった（3）大変良くなったの3項目に対して質問をいたしました。結果は（1）は2名、（2）は17名、（3）は19名でした。（3）のみでは50%、（2）のみでは45%有効であり、全体では有効率95%ということになるのです。

1999年日鼻誌において川村氏の術後7年目の遠隔成績を報告されておりますが、有効率は57%でした。これではプラセボ効果と同等であり、レーザーが有効であるとはいえません。

つまりレーザー療法をする場合、他の選択があるということを説明することなく施行された場合、このレーザーというメスを用いたことに対して数十年においても医療裁判の証拠となりえると

いうことです。2004年日鼻誌43 アレルギー性鼻炎治療・現状と将来展望—学会講演において、現在アレルギー部門においてはリーダー的存在である馬場氏は、どのような手術が行われても、現状では治癒することができないと説明されております。さらに治癒の得られる治療法では、現状では特異的減感作療法が唯一の方法であるとも述べられております。当医院におけるスギ花粉の減感作の有効率が95%であったということより、この馬場氏の論説は正しいと確信いたします。この事実を無視することは医の倫理に反することにはならないでしょうか？効かないとする症例においては1999年日鼻誌 大久保氏らが下鼻甲粘膜高周波電気凝固術の報告があります。私が減感作の効果が不十分な小児症例に試みても、その効果の素晴らしさは目を見張るものがあり、これこそ粘膜の生理現象を損なうことなく完治に導く治療法であると確信しております。



呼吸器機能制御における 前庭系の役割

新谷 敏晴

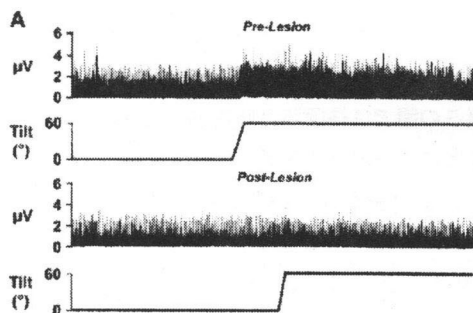
人間の中樞神経系の大きな役割の一つとして生体恒常性維持が挙げられる。このホメオスタシスを大きく変化させるものとして姿勢変化 (changes posture) がある。特に我々地球上の生物が一番影響を受けるであろう重力に逆らう動き、人間ならば臥位から立位へ、四足獣ならば四つん這いから前足を離して standing position になった際、非常に早い代償作用が誘導される。一つは血流が下肢に pool される事を防ぐために末梢の血管が縮小し血圧を上昇させる (心臓への静脈還流を一定に保つ)。もう一つは、横隔膜などの吸気筋 (ポンプ筋) が胸部臓器の重力を受け、横隔膜の shortening が惹起されると同時に、上気道の開通性が縮小されるため、それを代償させるべく上気道筋 (バルブ筋) の活動電位が増大する。この一連の反射は、当然これら姿勢変化の入力情報は体性感覚に依存するものもあるが、前庭からの入力も大いに関与しているとされ、前庭呼吸反射と呼ばれ、前庭自律神経反射の一部として認識され始めた。また上気道筋、特にその中でも舌を前方へ突き出す働きを持つオトガイ舌筋もこの反射によって活動せしめられ、姿勢変化における気道開通性を維持する大切な役割を持つものと考えられる (舌根沈下を未然に防ぐ)。つまり前庭、主に耳石器からの入力呼吸筋活動を変化させているといえる。今回私がアメリカ・ピッツバーグ大学で研究する機会を頂き得られた結果も含め、最近の前庭呼吸反射について報告したい (横隔膜や腹直筋などは起立を維持するためにも役立っており、前庭脊髄反射の一部としても機能している。この領域は杉田先生が東京医大でリサーチされたので御参考になさってください)。

1) 前庭神経刺激による呼吸筋活動電位の変化

全身麻酔下で正円窓電極挿入を施されたネコを、意識下の状態で前庭を刺激させ、その際の呼吸筋 (横隔膜、腹直筋、外斜角筋)、上気道筋 (オトガイ舌筋) の誘発活動電位を調べた。この電気刺激でわずかな潜時で末梢筋電図を記録できた。電気生理学的にこの神経経路の存在が確認された。

2) 姿勢変化による迷路破壊ネコの呼吸筋、上気道筋の活動電位の変化

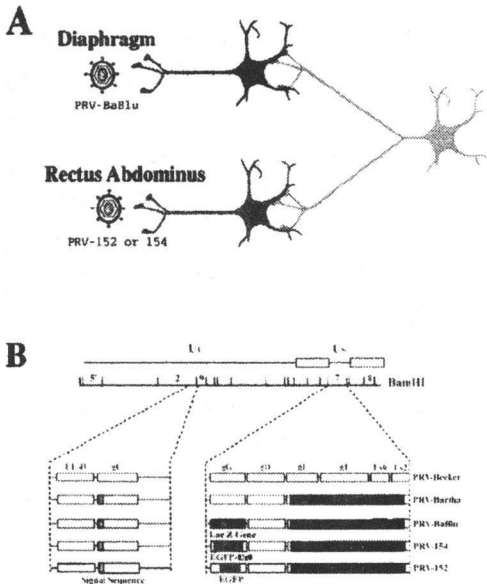
全身麻酔下にて両側 labyrinthectomy を施行し、意識下の状態で姿勢変化、特に pitch 運動での呼吸筋、上気道筋の活動電位の変化を調査した。



上図にあるように60°のpitch運動で、破壊前ではオトガイ舌筋の活動電位に増加がみられていたのが、破壊によって増加が抑制されている。これにより、前庭、特に耳石器の入力が上気道筋に影響を与えていることが証明された。

3) 前庭呼吸反射をコントロールする中枢神経回路の探索

延髄内側網様体 (the medial medullary reticular formation : MRF) が前庭神経核と呼吸中枢を中継している部位と言われている。transynapticに移動する、遺伝子操作されたトレーサー (Pseudorabies virus : PRV) を末梢部位(横隔膜や上気道筋など)に注入し、中枢の上位運動ニューロンの分布を調査した。



上図にあるような遺伝子操作された virus を末梢 (この図では横隔膜と腹直筋) に同時に注入することによって上位運動ニューロンが、時には単独に、また軸索分枝が合った際は二重標識される。今回は横隔膜とオトガイ舌筋に2種類の virus (PRV-152、PRV Bablu)を注入した。

Table 1. Number of infected neurons in the MRF after injection of PRV-BaBlu into the diaphragm and PRV-152 into the genioglossal muscle

Case No.	PRV-152	PRV-BaBlu	Double Infected
1	90	45	10
2	44	136	7
3	16	42	2
4	48	12	1
5	108	66	15
6	11	18	1
Total	317	319	36

Neuronal counts were obtained from 1 of 6 bins of brain stem tissue collected. Survival times were 5 days after diaphragm injections and 4 days after genioglossal muscle injections. Neuronal counts from both the ipsilateral and contralateral sides were pooled. MRF, medullary reticular formation; PRV, pseudorabies virus.

結果は表に示す通り、それぞれの上位運動ニューロンの細胞体がMRFに分布し、約11%に overlapping がみられた。まだこの神経が直接前庭神経核からの入力を受けていることは証明されていないが、この領域には実際かなりの量の投射を受けており、姿勢変化によって吸気筋である横隔膜と気道開通性を維持するオトガイ舌筋が同時にコントロールされ得ることが形態学的に証明された。

Siene, Paris紀行

済生会川口総合病院 犬飼 賢也

2004年7月3～5日Prof Zee誕生日記念学術集会（シエナ）、7月7～9日Barany学会（パリ）に参加してきました。

今回はまずはトラブルが多かったことを記載します。①パリのシャルルドゴール空港では、荷物の中に爆弾が仕掛けられていたこと、②シエナの宿が学会会場から遠く、毎回多額のタクシー代を支払っていたこと、③タリアのバスがストのために動かなかったこと、④エールフランスがわれわれの帰国前々日のストのあおりで、危うく予定の飛行機に乗れないところだったこと、などです（杉田先生は、本当に乗れませんでした）。帰国後、教授と杉田先生は某旅行会社に苦情の手紙を書きました。タクシー代、タクシーを呼ぶための携帯電話代は返ってきました。

トラブルはありましたが、大部分は有意義に過ごせました。イタリアでは、時間の合間を縫って観光に行きました。7月3日の昼間は学会の予定はなく、フリーでしたので、フィレンツェに行きました。写真はその時の昼食時の写真です。左から岡田先生、杉田先生、肥塚先生の御長女、肥塚先生、私です。郷に入れば郷に従えで、昼間からワインを飲んでいます。

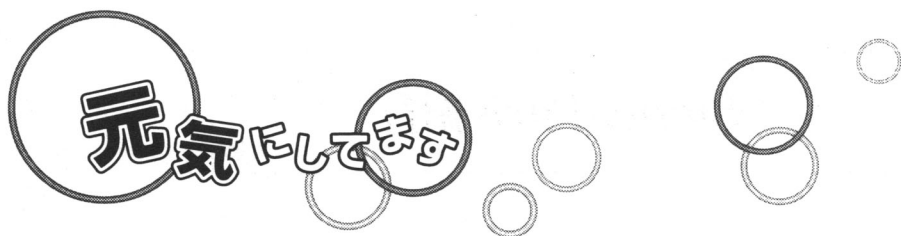
Prof Zee誕生日記念学術集会は眼球運動に関する発表でした。耳鼻科医だけではなく、生理学者、眼科医、心理学者の参加もありました。会場は1会場だけでしたので、何を聴けば良いか悩むことはなく、落ち着いて聴くことができました。

パリのバラニー学会議は、演題数が非常に多く、口演194題、ポスター224題でした。口演会場は3会場、ポスター会場は2会場（+器械展示場の一部）でした。昼食は各自摂るようになっており、国際学会で昼食が出ないのは珍しいとの評判でした。肝心の発表ですが、当科からは4題発表しました。肥塚教授、岡田講師がポスター演題、杉田先生と私は口演でした。私は海外での口演は初めてでしたので、英会話学校に通って、発音指導を受けるなどして、準備は大変でした。でも、終わってみると、征服感があり、何とも言えない感動がありました。良かったのか悪かったのかわかりませんが会場からの質問はありませんでした。

今まで、平穩無事な海外旅行、海外出張しか無かった私にとって、トラブルは良い経験だったと思います。肥塚先生にトラブル時の対応についても学べたと思っています。

また、研究して、国際学会で発表したいと思っています。



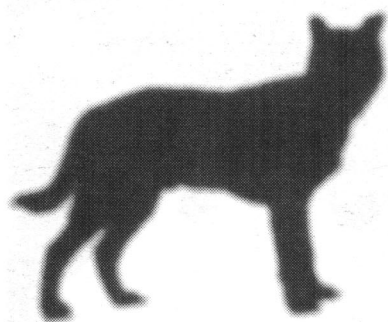


老け顔の犬。実は…

東芝林間病院 田中 健二郎

突然ですが、皆さんは犬の顔面神経麻痺を見たことがありますか？先日、我が家の8歳になるシェパード（ラッキー）の顔を見て、「最近、急に老けてきたよね」と母と話しをしていました。その後、寝ているラッキーを見た兄（眼科医）が右眼が開いたままとっていることを見つけ、顔面神経麻痺だと分かりました。確かに正面からよく見ると耳の角度とまばたきに左右差があり、患側の口角は垂れ下がっていました。つまり、患側のみから顔を見て、急に老けたなと思ってしまったのです。それにしても犬とはいえ、顔面神経麻痺を見抜けなかったことは耳鼻科医として少しショックでした。ベル麻痺だったようであり、その後の経過は良好で約2ヶ月で完治しました。

しかしながら、今回のことでは改めて、患者を診る際には訴えがあるところのみではなく、広い視野に立って診察をする必要があるといういい教訓となりました。



元気になっています

稲城市立病院 中村 学

稲城市立病院の中村学と申します。昨年度より当病院に勤務しております。専門外来としては睡眠時無呼吸外来を行っており、日夜臨床に励んでおります。

しかし、赴任した頃から疲れがたまりやすく「思ったよりハードワークなのかもしれない。大学院にいたので臨床ボケしてしまった。」と思っておりました。しかし、数ヶ月経っても、仕事は慣れたにも関わらず疲労がたまり朝起きるのが辛くなってしまいました。さらに、通勤の運転中に眠くなり、彼女からは夜いびきを指摘され（息も止まっており）…、ここでお気づきの方なら解ると思いますが、私の専門外来の睡眠時無呼吸症候群に合致するではありませんか！

retro spectiveに考えると①研修医時、お互いにファイバーの練習をしたときアデノイド肥大を指摘されている。②学生時代より15Kgも体重が増加した。③集中力散漫（これは生来のものかもしれませんが…）などがあげられ、上記によりアデノイド肥大による閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）と診断致しました（出来てしまいました…）。

ここで上記患者について検査結果をふまえてまとめますと

症 例：31歳、男性。

主 訴：眠気。

既往歴：9歳の時にadenotomy+tonsillectomy施行

家族歴：特記すべきものは認めず。

現病歴：平成14年頃より極度の眠気に気づいた。

徐々に症状増悪するも放置していた。

初診時所見：上咽頭に充満するアデノイドを認める（9歳の時にadenotomy施行するもrestあったとのこと）。鼓膜所見は正常。ESS(Epworth Sleepiness Scale)15点、BMI27.2、血液生化学検査にて高尿酸血症および高コレステロール血症を認めた。8/25 polysomnography施行、AHI 76.5、SatO2は無呼吸時75%まで低下しており、重症のOSASと診断した。

という感じでした。さらに7月には集中力散漫のためか交通事故も起こしており、夏休みを使ってでもadenotomyを行おうと思いました。先週に入れたためまい患者と同じ病棟に8/29にこっそりと入院し8/30adenotomy施行して頂きました。導入、抜管時の記憶がはっきりとしていることが意外でした。自分が術者の時、導入抜管時にあまり余計なことを言っていないか心配になりました。そのようなことを思いつつ、術後さらに意識がはっきりすると鼻で息が出来ないことに気づきました。…ベロックタンポンが挿入されておりました。後日談ですが術中デブリッターや鼻内視鏡を駆使しても術操作が困難であり、アデノイドから出血が激しく術野が確認できない状態だったとのこと。文献的考察もふまえて成人のadenotomyは出血が多く大変だそうで、とんでもない患者のOPEをさせてしまったと反省しております。また、術後当日の夜、口蓋垂が腫れ、鼻も口も息が出来ず、苦しかったことが記憶に残ります。さらに、入院中は頭も洗えずバルーン抜去後の排尿痛もあり思ったよりも大変でした。その中で、時々来る看護婦さんの優しさが心に染みしました。今後患者に接する際にはよりいたわりを持って接することが出来そうな気がします。術後はとても良好であり、いびきも軽減、起床時も頭が軽く、眠くもありません。（集中力は散漫のままですが…）

この夏、夏休みとアデノイドを失いましたが入院生活を通じて得るものもかなりあったと思います。また、症状も改善し今後もよりいっそう頑張れる気が致します。最後に手術して頂きました菱澤えり子先生、堤康一郎先生、麻酔をして頂いた岡田吉史先生、および稲城市立病院のコメディカルの方々、大変ありがとうございました。

頑張っています

共立蒲原総合病院 春日井 滋

平成15年4月に医局から当院へ派遣され早くも1年半が過ぎました。この度、原稿依頼を受け病院の紹介およびボスこと木下先生や私の生活を近況として報告したいと思います。

当院は駿河湾に近く、また富士山を一望できる自然豊かな環境に位置しています。MRI、CTなどの機器を備えた総合病院で、西部病院に似ている感じがします。私たちが赴任するまでの2年間、耳鼻科の常勤医が不在だったということもあり、はじめの頃は外来患者も少なく、当然手術もほとんどなく不安の募る日々でした。しかし、木下先生は常に「正しい医療をしていれば、その患者の家族や知り合いと徐々に増えてくるから」と話し、現在では家族みんなでかかる患者も多く、外来患者数も平均50~60人となりました。患者さんの傾向としましてはご年配の方が多く、比較的にめまい患者が多いと思われます。手術件数は決して多くはありませんが、扁桃摘、内視鏡下副鼻腔根本術、鼻中隔矯正術はそれなりにあり、特に鼻の手術は当院にきて初めて実際にやらせて頂き、かなり勉強になっています。

さて仕事の話はこれくらいにして、まず私の愛するボスについて簡単に報告したいと思います。スキンヘッドになったボスは、外見からはとても医者には見えず、スーツなんて着たら完璧にその道の方に間違われます。先日、まさにその方

面のお子さん（4歳）が外来に来て大暴れした時、ボスは机を叩き本気で怒り、子供は大人しくなりました。その風景を見て私は、間違いなくスカウトがくるなと本気で思いました。冗談はさておき、普段はぶっきらぼうな事ばかり言っていますが、実際は耳鼻科分野を問わず、豊富な知識や経験を持ち、本当に頼りになる尊敬出来る先生です。私生活では駿河湾や興津川といった釣りの環境にも恵まれており、かなり生き生きしています。ご周知の事と思いますが、ボスは本物の釣り人間で、手術で私が出来なかつたりしたときは、その後必ず釣りに例えて着眼点などを教えてくれます。厳しさの中にも温かさのある最高の指導者です。

次に、私自身の生活について述べたいと思います。週1回英会話に行き、中学生レベルからやり直しています。また院内にサッカーチームがあり、他科の先生やパラメディカルと共に練習したり、試合したりしていい汗を流しています。その他は木下先生夫妻とスポーツジムに行ったり、釣りをしたりしてかなり静岡ライフを満喫しています。私自身田舎（青森）出身ということもあり、静岡県民のゆったりした正確は合っている気がします。

最後になりましたが、教科書等で知識を高める事はもちろんのこと、木下先生の技術を出来るだけ盗み、少しでも自分のものにしていきたいと思います。これからも精一杯頑張りますので宜しくお願いします。



新入局員紹介

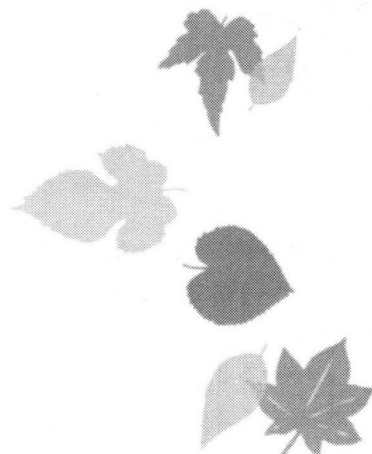
平成15年度入局

よろしくお願ひいたします

岡村 淳

平成16年8月に入局させていただきました。
まだ2ヶ月しか経っておらず、日々の業務を覚えるので精一杯の状態が続いています。早く耳鼻科医としての診療技術を習得し、患者さんに余裕を持って接することができるように頑張りたいと思います。

僕は平成6年に群馬大学医学部を卒業し、8年間基礎研究（生化学）に従事しました。その後、臨床に転向しこの7月までは富士宮市立病院放射線科で画像診断を中心に従事していました。最近、開業を考えるようになり、開業後も少なくとも外来レベルでは大病院と比較してある程度格差のない診療ができることや耳、鼻、喉と守備範囲が広くやりがいがあるという点で耳鼻科を選択しました。放射線科と異なり、耳鼻科は患者さんと接する機会が多く、今までとは違った意味で責任の重さを感じています。



ありがとう

ありがとう・・・

医療法人社団 菅野会 耳鼻咽喉科有馬クリニック 勝見 直樹

医局員の皆様、お元気ですか。みなさまと共に働いていた日々がついこのあいだの事のように思いますが、早いもので大学を離れてからすでに半年以上過ぎていました。この13年間の医局在籍中に、大学や関連病院にて御指導いただきました多くの同門会の先輩方に感謝申し上げます。ところでこの原稿を書いている週末の話題は、世界ではイチローの最多安打記録達成と国内では中日のセ・リーグ優勝です（これは一部の者だけかもしれませんが）。まず野球解説者がだれもが予想しなかったオレ流落合中日の優勝。戦力補強不要にはじまり川崎の開幕投手起用、ホームランを打った打者はあえて迎えに行かないが投手交代では自らマウンドに笑顔で行く。よくわからないオレ流だが選手を引き立て、モチベーションを高める指導によりこの結果を得たものと思われま。また日本の頂点から世界の頂点へ、そのイチローほどの選手であっても自分のスタイルに固執すること

はありません。状況や環境の変化に対応した柔軟で日々進化した打法によって偉大な記録を達成したのでしょうか。話が少しそれてしまいましたが、現在は医局の先輩でもある菅野先生と2人で菅野耳鼻咽喉科およびレーザー専門施設である耳鼻咽喉科有馬クリニックにて地域医療に貢献するように診療にあたっております。今までの病院での診療内容とはやはり異なる点も多く、自分の個性をいかしながら環境の変化にベストな状態で対応できるように努めています。また大きな組織の一歯車から副院長、院長とした立場を自覚し、管理職的な事も勉強中であります。

大学で学んだ経験に感謝して、これからも日々向上に努めたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

ありがとうございました。

聖マリアンナ医科大学 ありがとうございます

耳鼻咽喉科 むつみクリニック 釵持 睦

まだ残暑厳しい9月上旬に、医局から“ありがとう”という題で同門会へ投稿して下さいと連絡を頂きました。“ありがとう”でと言われても、いろいろと思い出が浮かんで来て、はじめは何について書こうか考えをまとめることがで

きませんでした。そこで、こんな僕を医者として世に送り出してくれた大学に感謝を込めて“聖マリアンナ医科大学、ありがとう”と題してみました。

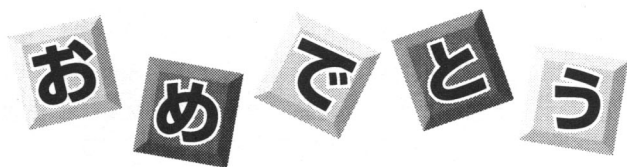
僕が聖マリアンナ医科大学に入学したのは昭

和56年、今から23年も前のことです。大学を入学するに至っては、とてもあわただしかったことを記憶しております。入学が決まったのが入学式の数日前でした。突然大学の事務から“補欠の席が一つ空いたので、まだどこか入学がきまっていなければすぐに来て手続きをしてください”と連絡がありました。電話があったとき僕は、まだどこも合格してなかったため、池袋のホテルに滞在して某大学の2次試験を受けている最中でした。しかし、そこはマリアンナより下のランクだったので、2次試験の途中でキャンセルしてすぐに自宅へ帰り、今は無き母親と自分の2人で次の日には、茨城の片田舎から120kmの道のりをタクシーで飛ばして大学へ行き、せわしく事務局長と挨拶をした後、入学の手続きを済ませました。その足で、大学の前の銀行へ行き、母親が大事そうに抱えていた風呂敷から現金で数百万円（今まで見た事のない現金でした）を大学へ入金し、当時の学生科の根津さんと会って大学の近くの西長沢の学生寮を見学させていただいてから、その場で寮の契約も済ませたことを昨日のここのようにはっきりと覚えています。本当にマリアンナに救っていただいた。マリアンナからお声がかからなかったら医者にはなってなかったのではないかと思います。

その時、事務局長に言われたこともよく覚えています。「お子さんは、英語が苦手ですね。足切りすれすれでしたよ。」本当にその通りで、大学に入学しても英語の授業は苦痛でした。特に学期末の英語の小論文は大変でした。これを通さないと留年の文字が浮かんでくるため、落とせない単位でした。しかし、僕の頭は理数系で、すばらしい文面など思い浮かばず、きれいな英語も知らないため、せめて題材だけでも知的センスのあるものを選んで合格するしかないと考えました。その頃の僕は、テレビっ子で明けても暮れてもテレビを見ていました。当時プロレス第二次ブームの時に、アントニオ猪木さんがプロレスラーとその他のスポーツ選手と戦

う異種格闘技戦をやっており、とても楽しみに見ていたため、アントニオ猪木さんに関しては英語の先生より知識が上と思い、アントニオ猪木さんのプロレス列伝を汚い英語で書きました。アントニオ猪木さんの生き様のどこが知的センスのある題材なのか、今では絶対あり得ない選択と思いますが、その戦略がみごとに功を成し、当時の英語の先生もユーモアがある英国の先生でしたので、日本の文化に非常に興味がおありで、日本のプロレスにも興味を示していただき、おほめの言葉をいただきました。そればかりか、他のクラスにまでも“日本のプロレスラー、アントニオ猪木はすばらしい”と語ったほど感銘していただき留年しないで進級することが出来ました。見事な技ありの一本でした。こんなことばかりで、毎年きりきりの境界線を綱渡りして進級し、昭和62年の国家試験でも自己採点では合格点まで届かなかったのですが、ふたを開ければ見事に合格してしまい、最後の最後まで境界線でした。それから17年間、耳鼻科医局に席を置かせていただきました。

こんな僕を医者にしていただいた聖マリアンナ医科大学にあらためて“本当にありがとうございました”と言いたい気持ちでいっぱいです。今年、マリアンナを退職し、自分でクリニックをこどもの国駅前に開業した僕ですが、未熟者であるため聴覚外来で勉強させていただきたいと思ってます。また、越智先生、木下先生と聴覚生理学の実験、研究も続けていきたいと考えてます。まだまだ聖マリアンナ医科大学にはお世話になると思いますのでよろしく願います。



源太 誕生

秦野赤十字病院 服部 康介

平成16年5月30日に男児が生まれました。名前は源太と言います。人に話すと大抵「シブい名前ですね」と言われます。私の家は江戸の頃から尾張で船大工を営んでおりましたが、私の祖父、源三が養子に入り、初めて医師となりました。その後私の父の世代は兄弟揃って医師となり医者一族となりましたが、現在ではその祖父も他界し、祖父の開業していた内科医院の跡を継いで父が耳鼻咽喉科医院を営んでおります。将に我が家の源となった祖父の一字をもらい源太と名付けましたが、この子には医師にならな

くてもやり甲斐のある自分の好きな職についてもらい、幸せに暮らしてくれば良いな、と常々思っております。親になって初めて自分の親の心が分かるということはこの歳になって初めて実感しました。誕生日は生まれた子のお祝いの日ではなくて、この世に生を授けてくれた両親へ感謝する日であると思うようになりました。思えば反発ばかりして困らせてばかりいましたが、そろそろ親孝行の一つもしてやらんとあ…と考える今日この頃です。

私の育児体験

東芝林間病院 東 美紀

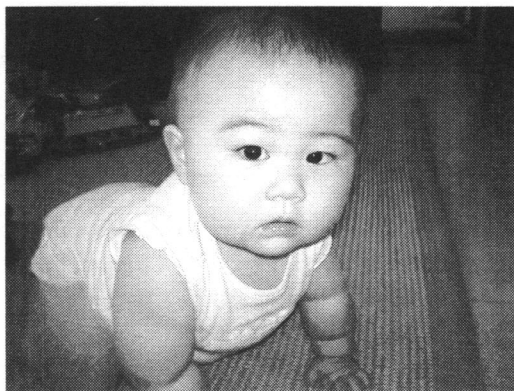
私事ですが昨年10月に長女を出産いたしました。名前は史織（しおり）といいます。妊娠中のある日、高校生くらいになった娘が私の夢の中に登場して自ら名乗ったのです。“お母さん、私は娘のしおりです！”学生服を着て、眼鏡をかけた女の子が夢枕に出来ました。ちょうど、超音波検査で男の子か女の子かが分かる前日でした。これはお腹の赤ちゃんのメッセージだ！と思い（込み）、この名前に即決しました。漢字は画数などを考慮して史織になりました。出生時は3010gで元気に生まれてきました。出てきた時はくしゃっとした顔でしかもむくんでいて、主人似ともいえず、私似ともいえず、とて

も不思議な気持ちでした。

最初の1、2ヶ月は、ねんねのサイクルがすごく短くてへたりました。ソフト連直といったかんじでしょうか。母乳の出が悪かったのでおっぱいが足りなかったようでした。仕方なく人工乳を併用するようになり、その頃からむくむくと肥えていきました。首がすわるくらいまでは横だっこなので、体重が増えていくと長時間のだっこのため腱鞘炎になりました。これが限界になってくると不思議なもので首がすわって立てだっこできるようになってくるんですね。動物の赤ちゃんなんかは生まれてすぐ歩きだしますが、人間の赤ちゃんは徐々に歩けるようになります。母親の体力がま

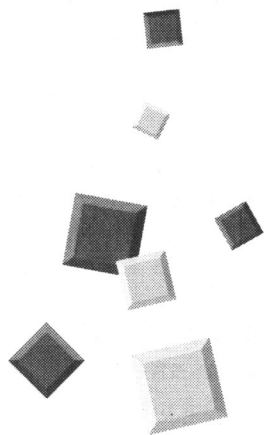
だ十分でない間はあまり動くことができなくて、少しずつ首がすわり、寝返りがうてるようになり、はいはいし始めます。はいはいし始めると少し体がしまり筋肉がついてきて、母親にしがみつくのが上手になってくるので、体は大きくはなりますが、だっこはしやすくなります。このように赤ちゃんの発育は、自然とお母さんの育児に無理がでないようになっていて、うまくできているなあ！としみじみ感動しました。

まもなく1歳を迎えます。身長は出生時の約1.5倍、体重は3倍になり成長の早さには目をみはるものがあります。ただちょっと太り気味で、健診にいくと、これ以上太らないように！と注意されました。食欲旺盛でなによりミルクが大好き。これが太る原因だろうとは思っていますが、いづれ飲まなくなるだろうと気楽に構えています。また最近、だんだんいたずらがエスカレートしてきて、おしゃぶりがなし！と思ったらゴミ箱に入れてしまっていたり、マガジン



ラックに入れてある新聞を全部広げてしまったり、ダメ！ということをわざとやってみたり、やりたい放題です。我が家には和室があり障子・襖がありますが、穴があくのも時間の問題だと思っています。

今日もこれから、史織をママちゃりに乗せて晩ごはんの買い物です。育児は今までやってきた仕事とは全く異質ですが、思いの外面白くこれも人生経験かなと思ひ満喫しています。



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会と称する。

本会は、通称を四門会と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会 員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役 員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条 (役員任期)

- (1) 本会の役員任期は、原則として4年とする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、この会則に定めるもの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員選任)

- (1) 理事および監事は聖マリアンナ医科大学卒業生の会員により推薦され、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、代表教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会 議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条 (理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。

・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室およ

び同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円

・ その他の会員は年額10,000円

- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員を選出)

- (1) 役員の数、理事 15名(聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室現医局員より5名、前者以外の会員より10名)

監事2名

- (2) 理事および監事の選出は総会において投票をもって行う。

理事は前(1)項の定数の内訳のごとく各5名、10名の連記、無記名投票とし、上位5名、10名を当選とし、監事にあっては、2名連記、無記名投票とし、上位2名を当選とする。

尚、最下位当選者と獲得票数が同じになった場合は対象者で再投票を行い決定する。

ただし、立候補者が役員の数以内であれば、信任投票をもって選任できる

- (3) 選挙は選挙管理委員会が管理する。委員長および委員は会員の中から理事会が委託する。

ただし、役員および立候補者は選挙管理委員となることはできない。

- (4) 立候補者は聖マリアンナ医科大学卒業生の会員

平成16年度 同門会 会員名簿

氏名 勤務先	自宅住所 勤務先住所	自宅tel 勤務先tel	自宅fax 勤務先fax
赤尾 一郎 赤尾耳鼻咽喉科医院	〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央11-1-308 〒248-0012 鎌倉市御成町5-6	045-948-5606 0467-25-3387	
赤城 光代 赤城医院 耳鼻咽喉科	〒607-8475 京都市山科区北花山横田町1-2 〒607-8481 京都市山科区北花山中道町35-31	075-583-3111 075-581-5436	075-583-3111 075-502-2261
赤澤 吉弘 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒213-0013 川崎市高津区末長606 ELM・M3-302 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-888-9418 044-977-8111	044-976-8748
秋山 由香里 鈴木耳鼻咽喉科医院	〒261-0013 千葉市美浜区打瀬3-5-4-1404 〒276-0033 八千代市八千代台南2-2-14	043-211-0868 047-483-4434	043-211-0868
朝倉 美弥 目白耳鼻咽喉科	〒173-0004 板橋区板橋1-47-17-1705 〒171-0031 豊島区目白2-5-27	03-5248-0210 03-5954-4133	03-5954-3387
東 美紀 東芝林間病院 耳鼻咽喉科	〒157-0067 世田谷区成城4-33-3-207 〒228-0802 相模原市上鶴間7-9-1	03-3483-0916 042-742-3577	042-742-6121
荒木 昭夫 荒木耳鼻咽喉科医院	〒150-0013 渋谷区恵比寿3-6-17 〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼1-11-6 鷺沼第一ビル2F	03-3441-5187 044-854-5518	03-3441-5187
飯田 順 飯田耳鼻咽喉科医院	〒215-0006 川崎市麻生区金程4-20-10 〒228-0011 座間市相武台1-4507 第六広栄ビル302	044-969-5528 046-257-9001	044-969-5529 046-257-9218
五十嵐 淑晴 五十嵐耳鼻咽喉科医院	〒142-0043 品川区二葉3-3-10 同 上	03-3787-1206 同 上	03-3788-8720 同 上
石倉 幹雄	〒145-0062 大田区北千束1-9-17	03-3717-3497	03-3717-3497
犬飼 賢也 済生会川口総合病院 耳鼻咽喉科	〒332-0021 川口市西川口2-5-2 トーエーマンション606 〒332-8558 川口市西川口5-11-5	048-259-5767 048-253-1551	048-259-5767 048-253-8319
井上 馨子	4126 Chales Ave. Culver City, C.A. 90232 U.S.A	310-836-4822	310-836-2677
井原 佳美 積仁会島田総合病院 耳鼻咽喉科	〒288-0031 銚子市前宿町845-3 グランドヒルズ301 〒288-0053 銚子市東町5-3	0479-24-1172 0479-22-5401	0479-23-3613
芋川 英紀 芋川耳鼻咽喉科クリニック	〒251-0037 藤沢市鶴沼海岸1-2-18-403 〒248-0006 鎌倉市小町2-10-1 壺番館ビル3F	0466-34-0938 0467-24-7273	0466-34-0938 0467-24-7273
巖 文雄 梶ヶ谷耳鼻咽喉科	〒158-0096 世田谷区玉川台1-11-15-205 〒213-0013 川崎市高津区末長146-1 A-103	03-5716-3633 044-877-4628	03-5716-3633 044-877-4628
岩澤 寛 耳鼻咽喉科岩澤医院	〒158-0093 世田谷区上野毛4-30-12 〒107-0052 港区赤坂3-1-16	03-3704-5178 03-3583-6155	03-3704-5178 03-3583-6155
岩武 博也 岩武耳鼻咽喉科医院	〒225-0005 横浜市青葉区荏子田1-2-5 C-403 〒247-0061 鎌倉市台5-2-27	045-901-3386 0467-46-2977	045-901-3386 0467-46-2977
上杉 恵介 上杉耳鼻咽喉科医院	〒112-0014 文京区関口3-17-4 ヒルズ目白台705 〒178-0064 練馬区南大泉4-48-7	03-5978-2676 03-3924-8187	03-5978-2676 03-3924-8187
内田 登 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒214-0014 川崎市多摩区登戸204-2-203 〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1	090-1425-5836 045-366-1111	045-366-1190
梅原 毅 島根医科大学 耳鼻咽喉科学	〒693-0001 出雲市今市町1215-1 サンデイモーラ603 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1	0853-21-1604 0853-23-2111	
漆畑 保 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒154-0016 世田谷区弦巻4-34-3-201 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3427-8362 044-977-8111	044-976-8748
榎並 厚人	〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷7-12-24	043-272-5777	043-272-5777
大川 勇 水元耳鼻咽喉科・外科クリニック	〒125-0035 葛飾区南水元1-25-1 同 上	03-3609-6389 03-3608-1202	03-3609-6389 03-3608-1202
大草 方子 医療法人社団逸光会西新橋耳鼻科アレルギー科	〒113-0001 文京区白山1-33-8-811 〒105-0003 港区西新橋1-5-9 TSビル5F	03-5684-8605 03-5157-0331	03-5157-0331

大越 俊和 大越医院	〒251-0026 〒226-0014	藤沢市鶴沼東4-9 横浜市緑区台村町362	0466-26-6985 045-931-1602	0466-26-6985 045-935-3012
大城 修 大城耳鼻咽喉科医院	〒905-0021 同 上	名護市東江4-4-3 同 上	0980-53-0636 0980-53-1697	0980-53-1939 同 上
大高 詳一郎 耳鼻咽喉科菅原医院	〒014-0311 同 上	仙北郡角館町田町上丁65 同 上	0187-54-2052 同 上	0187-54-3677 同 上
大竹 英夫 大竹耳鼻咽喉科	〒195-0055 〒177-0051	町田市三輪緑山1-7-11 練馬区関町北2-26-18	044-987-6705 03-3929-8733	03-3594-5286
大塚 崇志 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒214-0038 〒211-0063	川崎市多摩区生田6-19-2 ルピナス511号 川崎市中原区小杉町3-435	044-965-0214 044-722-2121	044-711-3316
大橋 徹 秦野赤十字病院 耳鼻咽喉科	〒305-0043 〒257-0012	つくば市大角豆949-10 秦野市西大竹尾尻地区43街区	0298-51-1741 0463-81-3721	0463-82-4416
大橋 直樹 (2003.11.退会)				
岡田 智幸 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒167-0032 〒216-8511	杉並区天沼3-6-34 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3398-7645 044-977-8111	044-976-8748
岡村 淳 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒215-0023 〒216-8511	川崎市麻生区片平4-10-1 川崎市宮前区菅生2-16-1	090-3501-1105 044-977-8111	044-976-8748
岡本 充史 水戸済生会総合病院 耳鼻咽喉科	〒311-4143 〒311-4145	水戸市大塚町1908-1-306 水戸市双葉台3-3-10	029-255-3062 029-254-5151	029-254-9099
荻野 貞雄 熊谷医院	〒230-0015 〒210-0846	横浜市鶴見区寺谷2-12-13 川崎市川崎区小田5-28-15	045-581-3413 044-322-5957	045-581-3413 044-322-5954
荻野 洋一 南眼科・形成外科(土曜のみ外来)	〒225-0011 〒232-0044	横浜市青葉区あざみ野3-18-10 横浜市南区榎町1-34-2	045-901-1461 045-715-3595	045-901-1461 045-715-3595
尾谷 良博 尾谷耳鼻咽喉科医院	〒404-0042 同 上	塩山市上於曾349-2 同 上	0553-32-3387 同 上	0553-32-3387 同 上
越智 健太郎 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒206-0804 〒211-0063	稲城市百村1624-1-1103 川崎市中原区小杉町3-435	042-379-4063 044-722-2121	044-711-3316
越智 有希子 (旧姓 松尾)	6940 Collins Ave. Miami Beach FL33141 U.S.A		786-897-3653	
小野 泰三郎 けやき台耳鼻咽喉科	〒190-0001 〒190-0001	立川市若葉町1-16-6 立川市若葉町1-14-28	042-537-3506 042-536-0240	
小野 智宏	〒216-0001	川崎市宮前区野川930-1-201	090-8779-0344	
小宅 大輔 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒225-0024 〒211-0063	横浜市青葉区市ヶ尾647-1-302 川崎市中原区小杉町3-435	045-972-0323 044-722-2121	044-711-3316
春日井 滋 共立蒲原総合病院 耳鼻咽喉科	〒421-3306 〒421-3306	庵原郡富士川町中之郷2500-1 (30G) 庵原郡富士川町中之郷2500-1	0545-81-1641 0545-81-2211	0545-81-2208
勝見 直樹 医療法人社団 菅野会 耳鼻咽喉科有馬クリニック	〒216-0007 〒216-0002	川崎市宮前区小台1-4-7-405 川崎市宮前区東有馬3-5-28 クレドール鷺沼107	044-856-7867 044-862-0087	044-862-0087
加藤 功 高津駅前 みみ・はな・のどクリニック	〒213-0001 〒213-0001	川崎市高津区溝口3-10-35 川崎市高津区溝口4-1-17 3F	044-814-2317 044-833-8741	044-814-2318 044-833-8721
金子 卓爾 かねこ耳鼻咽喉科	〒238-0041 〒238-0031	横須賀市本町3-33-3-1201 横須賀市衣笠栄町3-2-2エスケイビル(ローソン2F)	046-821-0542 046-852-4187	046-821-0542 046-852-4178
鎌数 清磨 カマカズ医院	〒916-0053 同 上	鯖江市日の出町5-4 同 上	0778-51-0207 0778-51-0131	0778-51-9595 同 上
荻田 みすず 木村耳鼻咽喉科医院	〒141-0021 〒306-0022	品川区上大崎3-12-14-403 古河市横山町1-10-33	03-5420-6303 0280-22-0614	03-5420-6303 0280-23-0553
木内 庸雄 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0032 〒216-8511	川崎市多摩区枅形5-26-1-204 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-932-6573 044-977-8111	044-976-8748
菊地 仁 関東労災病院 耳鼻咽喉科	〒225-0011 〒211-8510	横浜市青葉区あざみ野2-16-14 川崎市中原区木月住吉町2035	045-901-6435 044-411-3131	044-433-3150
菊地原 基敬 菊地原耳鼻咽喉科	〒215-0013 〒215-0005	川崎市麻生区王禅寺東3-25-8 川崎市麻生区千代ヶ丘8-1-3-103	044-952-5058 044-951-6821	044-952-5064 044-951-6822

平成16年度 同門会 会員名簿

北原 哲 防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座	〒173-0005 〒359-8513	板橋区仲宿47-17-409 所沢市並木3-2	03-3579-1016 04-2995-1686	03-3579-1016 04-2996-5212
木下 裕継 共立蒲原総合病院 耳鼻咽喉科	〒421-3306 〒421-3306	庵原郡富士川町中之郷2500-1-10- I 庵原郡富士川町中之郷2500-1	0545-81-3536 0545-81-2211	0545-81-2208
木原 紀子 森田医院	〒340-0034 〒340-0034	草加市氷川町1377-1 草加市住吉1-5-6	048-922-9834 048-922-2078	048-922-9834 048-922-5089
倉田 久美 倉田耳鼻咽喉科	〒239-0833 〒239-0842	横須賀市ハイランド2-16-4 横須賀市長沢3-3-10	046-847-2859 046-848-8741	046-848-1004
倉田 文雄 倉田耳鼻咽喉科	〒239-0833 〒239-0842	横須賀市ハイランド2-16-4 横須賀市長沢3-3-10	046-847-2859 046-848-8741	046-848-1004
黒田 寿史 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒225-0002 〒216-8511	横浜市青葉区美しが丘3-66-6-302 川崎市宮前区菅生2-16-1	045-903-4632 044-977-8111	044-976-8748
桑原 大輔 横浜総合病院 耳鼻咽喉科	〒145-0065 〒225-0025	大田区東雪谷2-35-19 横浜市青葉区鉄町2201	03-3720-0138 045-902-0001	045-903-3098
釵持 睦 耳鼻咽喉科 むつみクリニック	〒227-0036 〒227-0038	横浜市青葉区奈良町2864-3-2-401 横浜市青葉区奈良1-3-2ビクトリア奈良101号	045-961-0435 045-961-8781	045-961-8761
肥塚 泉 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒215-0017 〒216-8511	川崎市麻生区王禅寺西2-11-12 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-952-3907 044-977-8111	044-976-8748
小西 和朗 小西耳鼻科	〒031-0841 同 上	八戸市鮫町ハンノ木沢6-1	0178-33-1103 0178-33-1102	0178-33-1103 0178-33-1346
小林 健彦 積仁会島田総合病院 耳鼻咽喉科	〒288-0812 〒288-0053	銚子市栄町3-1562-6 銚子市東町5-3	0479-25-4438 0479-22-5401	0479-23-3613
小松崎 貴美	〒220-0032	横浜市西区老松町29-1 野毛山マンション3D	045-231-4463	
小松崎 靖 井澤耳鼻咽喉科医院	〒220-0032 〒230-0051	横浜市西区老松町29-1 野毛山マンション3D 横浜市鶴見区鶴見中央1-26-3	045-231-4463 045-502-1380	045-502-0551
五島 可喜 五島耳鼻咽喉科医院	〒253-0053 同 上	茅ヶ崎市東海岸北1-1-16	0467-82-4838 0467-85-6124	0467-83-4647
齋藤 晋 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0012 〒216-8511	川崎市多摩区中野島5-4-1ロイヤルパーク多摩川502 川崎市宮前区菅生2-16-1	090-3400-9920 044-977-8111	044-976-8748
坂本 園子 かい小児科耳鼻咽喉科医院	〒211-0095 同 上	川崎市幸区南加瀬3-25-1	044-588-3335 同 上	044-588-3335 同 上
佐久間 惇 佐久間耳鼻咽喉科クリニック	〒225-0012 〒216-0015	横浜市青葉区あざみ野南2-2-5-101 川崎市宮前区菅生2-1-6 日向園ビル1F	045-913-0985 044-975-4387	045-913-0985 044-975-4387
佐藤 成樹 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒224-0001 〒241-0811	横浜市都筑区中川2-10-1-501 横浜市旭区矢指町1197-1	045-913-1197 045-366-1111	045-366-1190
葵澤 えり子 稲城市立病院 耳鼻咽喉科	〒216-0033 〒206-0801	川崎市宮前区宮崎1-8-10-501 稲城市大丸1171	044-852-1807 042-377-0931	042-379-1310
島田 園子 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒158-0095 〒216-8511	世田谷区瀬田5-1-16-505 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3707-7192 044-977-8111	044-976-8748
新谷 敏晴 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒227-0043 〒211-0063	横浜市青葉区藤が丘2-23-20 川崎市中原区小杉町3-435	045-974-4050 044-722-2121	044-711-3316
新橋 涉 財団法人癌研究会附属病院 頭頸科	〒156-0054 〒170-8455	世田谷区桜丘5-17-20 プレファシオ201 豊島区上池袋1-37-1	03-3427-3213 03-3918-0111	
菅野 澄雄 医療法人社団 菅野会 菅野耳鼻咽喉科	〒224-0001 〒216-0002	横浜市都筑区中川5-30-23 川崎市宮前区東有馬3-5-29 三和ビル1F	045-910-4595 044-852-8733	045-910-4595 044-852-8733
杉浦 夏樹 藤田耳鼻咽喉科	〒146-0092 〒145-0071	大田区下丸子4-26-5-1102 大田区田園調布2-34-22	03-5482-4755 03-3721-2832	03-3721-2832
杉田 明美 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒215-0021 〒241-0811	川崎市麻生区上麻生3-13-1-712 横浜市旭区矢指町1197-1	044-966-6609 045-366-1111	045-366-1190
杉山 裕 済生会川口総合病院 耳鼻咽喉科	〒180-0006 〒332-0021	武蔵野市中町1-17-7 三興ビル701 川口市西川口5-11-5	0422-52-1585 048-253-1550	048-253-8940
鈴木 一輝 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒241-0024 〒216-8511	横浜市旭区本村町62-14-309 川崎市宮前区菅生2-16-1	090-4704-3439 044-977-8111	044-976-8748

鈴木 毅 鈴木耳鼻咽喉科医院	〒215-0021	川崎市麻生区上麻生3-13-1-408	044-951-9559	
鈴木 正彦	〒259-0132	中郡二宮町緑が丘3-2-12	0463-70-1191	0463-70-1191
かものみや耳鼻咽喉科	〒250-0875	小田原市南鴨宮3-33-16	0465-48-4133	0465-48-4133
関 良武	〒215-0017	川崎市麻生区王禅寺西1-45-15-II-106	044-951-1898	
聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
瀬戸 皖一	〒230-0017	横浜市鶴見区東寺尾中台20-31	045-582-5617	045-582-8733
鶴見大学 口腔外科学第一講座	〒230-8501	横浜市鶴見区鶴見2-1-3	045-582-0459	045-582-0459
曾我 敏恵	〒230-0047	横浜市鶴見区下野谷町4-179	045-511-3839	045-505-5768
白井耳鼻咽喉科医院		同上	045-506-3862	同上
高津 光晴	〒157-0066	世田谷区成城7-8-5 グリーンタウン成城II 120	03-3789-1120	
聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒211-0063	川崎市中原区小杉町3-435	044-722-2121	044-711-3316
高橋 姿	〒951-8102	新潟市二葉町1-823-30	025-223-9011	025-223-9011
新潟大学大学院医歯学総合研究科感覚統合医学講座耳鼻咽喉科学分野	〒951-8510	新潟市旭町通1番町757	025-227-2303	025-227-0787
高橋 佳孝	〒214-0012	川崎市多摩区中野島3-14-33-203	090-9386-3187	
聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
竹山 勇	〒194-0001	町田市つくし野2-10-32	042-796-5413	042-796-5413
竹山耳鼻咽喉科クリニック	〒215-0011	川崎市麻生区百合丘3-27-1	044-952-3356	044-952-3356
田澤 卓	〒225-0003	横浜市青葉区新石川2-21-6 A-102	045-913-6984	
たざわ耳鼻咽喉科クリニック	〒227-0041	横浜市青葉区上谷本町723-1	045-972-9556	045-972-9557
田中 健二郎	〒228-0813	相模原市松が枝町19-10-202	042-746-7103	
東芝林間病院 耳鼻咽喉科	〒228-0802	相模原市上鶴岡7-9-1	042-742-3577	042-742-6121
田中 泰彦	〒215-0013	川崎市麻生区王禅寺西5-10-16-202	044-987-9821	
聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
田辺 忠夫	〒369-0112	北足立郡吹上町鎌塚4-3-1	0485-48-5100	
田辺耳鼻咽喉科医院		同上	0485-49-0733	0485-49-0733
田畑 久美子	〒963-7851	石川郡石川町字新町51	0247-26-7317	0247-26-7317
医療法人誠励会 中島病院	〒963-7851	石川郡石川町字新町46-1	0247-26-3415	0247-26-3416
堤 康一朗	〒164-0012	中野区本町2-42-15	03-3372-2110	
聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
廿野 延和 (2003.11.退会)				
戸田 行雄	〒433-8112	浜松市初生町820-1	053-437-8733	
戸田耳鼻咽喉科医院		同上	053-438-3311	053-438-3312
富澤 秀雄	〒311-4152	水戸市河和田1-1574-402	029-253-3111	
水戸済生会総合病院 耳鼻咽喉科	〒311-4145	水戸市双葉台3-3-10	029-254-5151	029-254-9099
鳥越 達也	〒241-0816	横浜市旭区笹野台1-1-43 -408号	045-362-9318	
鳥越耳鼻咽喉科	〒241-0816	横浜市旭区笹野台1-1-38 KNC壺番館	045-366-6487	045-366-6487
中島 博昭	〒241-0836	横浜市旭区万騎が原130-2	045-365-4542	
中村 学	〒116-0003	荒川区南千住5-7-5	03-3891-2880	
稲城市立病院 耳鼻咽喉科	〒206-0801	稲城市大丸1171	042-377-0931	042-379-1310
西野 裕仁	〒215-0012	川崎市麻生区東百合丘3-20-14-304	044-965-2447	
稲田登戸病院 耳鼻咽喉科	〒211-0032	川崎市多摩区榎形6-1-1	044-911-2100	044-900-2945
信清 重典	〒224-0021	横浜市都筑区北山田7-4-3-1006	045-952-9697	
聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
橋本 久子	〒235-0033	横浜市磯子区杉田1-17-1-1009	045-774-3159	045-774-3159
橋本耳鼻咽喉科医院	〒235-0033	横浜市磯子区杉田1-17-1 プララ杉田3F	045-774-4133	045-774-4133
服部 康介	〒225-0024	横浜市青葉区市ヶ尾町1076-26	045-971-4757	
秦野赤十字病院 耳鼻咽喉科	〒257-0011	秦野市西大竹尾尻地区43街区	0463-81-3721	0463-82-4416
菱沼 文彦	〒187-0003	小平市花小金井南町3-3-11	0424-62-6248	0424-62-6248
菱沼耳鼻咽喉科医院	〒189-0013	東村山市栄町2-10-24	042-394-8350	042-394-8350
依道 淳	〒232-0054	横浜市南区大橋町3-54-2-301	090-1463-0932	
聖ヨゼフ病院 耳鼻咽喉科	〒238-0018	横須賀市緑が丘28	0468-22-2134	0468-22-3134

平成16年度 同門会 会員名簿

平沼 一良 平沼歯科クリニック	〒225-0001 〒216-0022	横浜市青葉区美しが丘西3-13-9 川崎市宮前区平1-4-16	045-901-5001 044-866-6006	045-901-5001 044-866-5885
深沢 雅彦 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒181-0013 〒216-8511	三鷹市下連雀3-7-6 トパーズ103 川崎市宮前区菅生2-16-1	0422-45-2011 044-977-8111	044-976-8748
古野 隆之 古野耳鼻咽喉科医院	〒820-0065 〒820-0040	飯塚市中952 飯塚市吉原町6-1 i-town 4F	0948-22-1950 0948-26-8787	0948-28-9123
星川 智英 星川耳鼻咽喉科	〒223-0056 〒222-0012	横浜市港北区新吉田東1-44-6 横浜市港北区富士塚1-1-9-202	045-531-2285 045-435-1287	045-531-2285
細川 智 細川耳鼻咽喉科医院	〒359-1111 同 上	所沢市緑町2-22-8	042-939-4005 同 上	042-923-8523 同 上
松生 愛彦 松生耳鼻咽喉科医院	〒157-0066 同 上	世田谷区成城6-18-20	03-3484-1811 同 上	03-3484-2122 同 上
三井 雅夫	〒216-0013	川崎市宮前区潮見台8-28	044-975-0881	
南 定 みなみ耳鼻咽喉科医院	〒151-0072 同 上	渋谷区幡ヶ谷2-18-16	03-3378-3597 03-3376-2554	03-3378-3597 03-3376-2554
三保 仁 三保耳鼻咽喉科	〒222-0002 〒222-0031	横浜市港北区師岡町356 横浜市港北区太尾町520 三保クリニックビル1F	045-531-1500 045-545-8711	045-545-1487
宮坂 良介 宮坂医院	〒365-0014 同 上	北埼玉郡川里町屈巢3843	048-569-0100 同 上	048-569-2527 同 上
宮部 聡 宮部耳鼻咽喉科医院	〒224-0001 〒214-0038	横浜市都筑区中川1-17-1-602 川崎市多摩区生田7-2-7	045-913-5442 044-922-8193	045-913-5442 044-932-2311
宮本 康裕 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院 耳鼻咽喉科	〒211-0044 〒241-0811	川崎市中原区新城3-16-21 横浜市旭区矢指町1197-1	044-799-7749 045-366-1111	045-366-1190
守安 靖廉 大岡山耳鼻科	〒145-0062 同 上	大田区北千束1-13-5	03-3723-0585 03-3723-5212	
諸見里 和子 みはら整形外科・耳鼻科	〒904-2153 同 上	沖縄市字美里1554	098-921-0088 同 上	098-921-0088 同 上
矢崎 裕久 山梨大学医学部 耳鼻咽喉科学	〒400-0017 〒409-3898	甲府市屋形2-2-23 中巨摩郡玉穂町下河東1110	055-254-7075 055-273-6769	055-254-7075 055-273-9670
山田 善一 中町耳鼻咽喉科クリニック	〒963-8004 同 上	郡山市中町14-17	024-939-3387 024-939-3387	024-939-3390
山根 あゆ子	〒113-0023	文京区向丘2-17-1 ナイスアーバン302	03-3828-1322	
吉川 由繪 吉川耳鼻咽喉科医院	〒330-0061 〒332-0021	さいたま市浦和区常磐7-9-16 川口市西川口1-6-1 小野田ビル3F	048-833-0871 048-254-0871	048-252-4866
吉田 篤正 吉田医院	〒227-0062 〒226-0025	横浜市青葉区青葉台1-21-8 横浜市緑区十日市場町801-8	045-984-2006 045-983-6649	045-984-6773 045-983-6649
吉野 清美 よしの耳鼻咽喉科クリニック	〒271-0077 〒116-0003	松戸市根本472-4 荒川区南千住4-7-1 ウェルシップ3B	047-362-3490 03-5850-3379	047-362-3493 03-5850-3380
渡辺 昭司 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0036 〒216-8511	川崎市多摩区南生田2-6-13 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-954-2293 044-977-8111	044-976-8748
渡邊 嘉彦 網島耳鼻咽喉科医院	〒194-0002 〒223-0052	町田市南つくし野4-8-26 横浜市港北区網島東1-1-5 芝田ビル2F	042-795-7274 045-541-0765	042-795-7274 045-574-0225
渡来 潤次 わたらい耳鼻咽喉科医院	〒181-0012 〒181-0012	三鷹市上連雀2-4-13 三鷹市上連雀2-3-5	0422-47-9077 0422-72-2733	0422-47-9093 0422-72-2787
和田 弘 相武台病院 耳鼻咽喉科	〒146-0094 〒228-0011	大田区東矢口3-15-4 座間市相武台1-4941-1	03-3735-4133 046-256-5111	046-256-5115

敬称略

物故会員

奥野 恒弥
河合 清隆
宮尾 益征

自宅・勤務先の住所変更・訂正がありましたらご連絡ください。

第7回理事会議事録

平成15年11月23日

1. 会員数、内訳（平成15年11月23日現在）

総会員数；128名

うち現医局員42名、名誉会員5名

2. 会員異動

大橋 徹 平成15年3月 退職
(秦野赤十字病院 耳鼻咽喉科)赤尾 一朗 平成15年3月 退職
(横浜総合病院 耳鼻咽喉科)秋山由香里 平成15年3月 退職
(鈴木耳鼻咽喉科医院)宮部 聡 平成15年3月 退職
(宮部耳鼻咽喉科医院)杉浦 夏樹 平成15年3月 退職
(藤田病院)菊地 仁 平成15年3月 退職
(関東労災病院 耳鼻咽喉科)尾谷 良博 平成15年3月 退職
(尾谷耳鼻咽喉科医院)荏田みすず 平成15年3月 退職
(木村耳鼻咽喉科医院)越智有希子 平成15年3月 退職
山根あゆ子 平成15年3月 退職

3. 新入会員

木内 康雄 平成6年3月
大阪大学医学部卒
深沢 雅彦 平成15年3月
聖マリアンナ医科大学卒小野 智宏 平成15年3月
東京医科大学卒大草 方子 昭和62年3月
神戸大学卒

4. 会計報告（平成15年度）

	収入	支出
平成14年度繰越金	¥ 1,222,492	
平成15年度年会費	¥ 835,000	
広告掲載費	¥ 240,000	
会場費	¥ 555,000	
四門会誌第10号印刷費		¥ 400,000
四門会総会会場費		¥ 346,710
同門会賞賞金（作成費含）		¥ 125,641
通信費、消耗品費		¥ 70,625
集合写真		¥ 195,000
計	¥2,852,492	¥1,137,976
平成16年度への繰越金	¥1,714,516	

5. 平成16年度役員人事

平成15年度 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会役員

会長 肥塚 泉

副会長 菊地原基敬

推薦理事 肥塚 泉

名誉理事 荻野洋一、竹山 勇、加藤 功

理事 飯田 順、岩澤 寛、上杉恵介、
大竹英夫、小野泰三郎、菊地原
基敬、高橋 姿、戸田行雄、中
島博昭、渡来潤次

(敬称略50音順)

大橋 徹、堤 康一郎、岩武博
也、佐藤成樹、越智健太郎

監事 石倉幹雄、岡田智幸

事務局長 勝見直樹

6. 平成16年度総会日時

平成16年11月28日（日）

7. 訃報

宮尾益征先生 他界 平成15年1月31日

8. 退職希望者

大橋直樹、甘野延和（共に滞納金あり）

編集後記

ある雑誌に、先輩の言葉がありました。何でもかんでも、手術して、本当に患者さんのためになったのかと懐疑する文章でした。先輩は、耳鼻科医で大学人として教授まで上り詰めた方です。

開業され、ハタと気が付いたそうです。実際、お会いし、直接お話しを伺うことができました。というのも、先輩の開業されている医院に息子が通院しているからです。

例えば、扁桃摘ですが、大学病院でありながら数少なく局麻で行っていた施設だそうです。何百例と行っても、今や扁桃摘は患者さんには絶対勧めないとのことでした。大学を離れ、かつて扁桃摘した患者さんが自分の医院を訪れ、彼らの子供が同様な症状であり、扁桃摘したほうが良いか否かを尋ねられても答えは「No」。もちろん「case by case」ともおっしゃっておりました。

何が、ここでいいなのか？「全人的医療そして個々の患者さんに最もふさわしい医療がそこにあり、ようやく今気付いた」と白髪を撫でながらおっしゃいました。

すでに私も白髪ですが、「今一度考えてみなくては」と思う今日この頃です。
(文責：岡田智幸)

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

「四門会」第12号

平成16年11月発行

発行 聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話 044 (977) 8111 (代)
制作 株式会社 教育広報社

